

表紙写真（上から）：
タヌキ
ナミルリモンハナバチ
サギソウ、トノサマガエル
望海浜の風景
ゴクラクハゼ、シロチドリ
裏表紙写真：
ハッチョウトンボ

明石市の 大切にしたい生きもの ～明石市レッドリスト～ ガイドブック



ガイドブック



明石市の大切にしたい生きもの ～明石市レッドリスト～ ガイドブック

2022年（令和4年）4月

編集発行 / 明石市 環境産業局 環境室 環境創造課

兵庫県明石市中崎1丁目5番1号

電話：078-918-5786 FAX：078-918-5192



SDGs 未来安心都市・明石
～いつまでも すべての人に
やさしいまちを みんなで～



はじめに

明石市には、おだやかな瀬戸内海を臨む美しい海岸線をはじめ、ため池群や田園地帯、里山林など豊かな自然が残されており、多様な生物が生息・生育する場となっています。しかしながら、これまで田んぼや水路、ため池などでふつうに見られていたトノサマガエルやミナミメダカなどは、宅地整備や農薬の使用などにより生息に適した環境が少なくなり、目にする機会が減ってきています。

このような状況のなかで、明石市では、2011年に「生物多様性あかし戦略」を定め、「いろいろな生きものが生息・生育するまち“あかし”」を目指し、生物多様性を守る取り組みを進めています。2019年3月には、「明石市の大切にしたい生きもの～明石市レッドリスト～」を作成し、277種の生きものを選定しました。

このレッドリストガイドブックには、レッドリストに選定した277種の貴重な野生生物の情報を掲載しています。明石市ではどのような生きものが減ってきているのか、また多くの人がからす都会でありながら、意外と多くの生きものたちが身近にいること、そんな生きものたちが生きる自然について、ぜひ皆様にご存知いただければと思います。

そして、この大切にしたい生きものや自然を将来世代に引き継ぐため、多くの方が身の回りの自然に目を向け、環境への負担の少ない生活へと見直していただくなど「人にも自然にも地球にもやさしいまち・あかし」を目指すきっかけになれば幸いです。

2022年（令和4年）3月 明石市

目次

- 明石の大切にしたい生きもの ～明石市レッドリスト～ とは？1
- 明石市の環境と生きもの1
- 明石市レッドリストの生きもの5
 - 哺乳類5
 - 鳥類5
 - 爬虫類10
 - 両生類10
 - 魚類11
 - 昆虫類13
 - 植物20

明石市レッドリストとSDGs

「SDGs」とは、「持続可能な開発目標」のことで、よりよい世界をつくるため、2015年の国連サミットで決められた17の目標です。明石市は、2020年7月17日に「SDGs未来都市」に認定され、2030年のあるべき姿として、「SDGs未来都市・明石～いつまでもすべての人にやさしいまちをみんなで～」を掲げ、SDGsの17のゴールを目指しています。「生物多様性あかし戦略」を推進するため、「明石の大切にしたい生きものリスト～明石市レッドリスト～」をつくり、明石市の自然や生きものを守って
 いくこうとする取り組みは、17の目標のうち、主に「14海の豊かさを守ろう」「15陸の豊かさを守ろう」に貢献するものです。



写真提供

- エコウイングあかし：小川 雅弘、森 逸男
 - 日本蜂類同好会西日本八チ研究会：福島 秀毅
 - 日本野鳥の会ひょうご：伊賀 文計、岩崎 健二、尾崎 由紀、尾崎 雄二
 - 兵庫県植物誌研究会：小林 禎樹
 - 兵庫県立大学・兵庫県立人と自然の博物館：黒田 有寿茂
 - 兵庫県立人と自然の博物館：八木 剛
 - 兵庫・水辺ネットワーク：大嶋 範行
 - 角野 康郎 ●大城 明夫 ●小野 由紀子 ●中村 和磨
 - (株)地域環境計画：飯田 一令、石山 麻子、上田 達也、上村 晋平、熊走 彰記、桑田 莉奈、中島 拓、前田 武志、松井 敬子、見瀬 浩子、村島 祐希、米田 和典
- ※一部写真を明石市立文化博物館発行『明石の野鳥』『明石の昆虫』より転載使用。
 ※撮影地が明石市外である写真が含まれる。

今 ハマビシ



海岸の砂浜に生えます。根から四方に茎を出し広がります。夏に葉のつけねに小さな黄色い花をつけ、果実は1cmほどで丸く、すどいとげがあります。

今 ミズスギナ



ため池に生える水草で、水の量にあわせて水の中の葉、水の上の葉など葉の形が変わります。8～10月に葉のつけねに白い小さな花をつけます。

今 ウンラン



海岸の砂地に生えます。高さ20cmほどで、砂地をほうように生えます。葉は厚みがあり、8～10月にうす黄色の花をつけます。

今 フサタヌキモ



ため池や湖などに生える水草で、食虫植物です。葉はやわらかくタヌキの尾に似ていることが名前の由来です。小さく黄色い花を3～5個つけます。

今 マルバオモダカ



ため池や水田などに生える水草です。葉を水に浮かべる場合と水から上に出す場合があります。夏には茎をのぼし花びら3枚の白い花をつけます。

今 トチカガミ



ため池、湖、水路などで、水に浮かんでいる水草です。葉は丸く、葉の裏に浮袋があります。夏から秋に3枚の花びらをもつ白い花を咲かせます。

今 ミズアオイ



水田や湿地に生えます。ハート形の葉をつけ、葉より上に、夏から秋にかけて青紫色の花をたくさんつけます。コナギという田んぼの雑草によく似ています。

今 ホシクサ



高さ15cmほどで、水田や湿地に細長い葉がまとまって生えます。夏から秋に茎の先に白い小さな花をつけ、その形が星に似ていることが名前の由来のひとつです。

＜お知らせ＞
 2019年（平成31年）3月公表の「明石市の大切にしたい生きもの～明石市レッドリスト～」掲載の次の種について、下記のとおり変更を予定しています。本ガイドブックでは変更を反映して掲載しています（掲載種数はレッドリスト掲載どおりです）。
 ●カスミサンショウウオ →セトウチサンショウウオ（種の細分化による種名変更）
 ●ドクゼリ→削除（選定根拠となった明石市での確認記録が明石市外の記録であることがわかったため）

明石のハマビシ

ハマビシは海岸の砂浜などに生える植物で、昔は播磨の海岸にも群落をつくっていました。実にとげがあり、漁師が網を干すときに引き抜いていたという話が残されています。しかし今ではハマビシは、国や兵庫県のレッドリストで絶滅危惧種とされ、各地で絶滅が心配されています。明石の海岸でもかつてはハマビシが生育していたことが、残された記録や標本からうかがえます。1922年に植物学者の牧野富太郎が明石の浜でハマビシを採集した記録がありますし、1959年に明石の海岸で採られた貴重な標本が、人と自然の博物館に残されています。しかしその後、埋め立てなどにより、兵庫県内の多くの海岸ではハマビシは見られなくなりました。現在、県内で自生のハマビシが見られるのは淡路島の富島ですが、明石市の藤江海岸には、海岸整備のときに種が持ちこまれたと考えられているハマビシが生育しています。これは自然に生えたものではないので、明石市レッドリストではハマビシは「今見られない」のカテゴリーに区分しています。

明石いきものコラム



藤江海岸のハマビシ保全エリア

要 リウキュウマメガキ



山地の日当たりのよい谷や斜面に生える木です。新しい枝にうす黄色の花をつけ、秋には橙色から黒紫色の2cmほどの果実が熟しますが、渋いです。

要 カワヂシャ



川岸や水路わきなどに生える高さ80cmほどの草です。5～6月に白やうす紫色の花をつけます。外来種のオオカワジシャは紫色の花をつけます。

要 コヤブラン



林の下に生えます。高さ20～40cmで、地面をはう茎で広がります。7～9月にうす紫色の花をまばらにつけます。果実が熟すと黒色になります。

要 ヒナザサ



湿地に生える高さ5～20cmほどの小さな草です。茎は地面をはって枝分かれし、先端は立ち上がります。8～10月、その先に目立たない花をつけます。

要 ハチジョウススキ



海岸の草地に生えます。高さ1.5～2mで、ススキに比べて茎は太く、葉の幅も広く、葉の縁はざらつきません。秋にススキに似た花をつけます。

要 シオクグ



塩水の出入りする海岸や河口の湿地などに生えます。高さ30～60cmで、葉は幅1.5～3mmと細く、4～7月に目立たない花をつけ、果実となります。

今 ハマハナヤスリ



日当たりのよい砂地や草地、河原などに生える高さ7～20cmほどのシダ植物です。4～11月に見られます。胞子をつける葉を別に出します。

今 オオイタビ



林の縁などに生えるつる植物です。枝から根を出して、木の幹や岩にはりつきます。秋にイチジクのような紫色の実(果のう)をつけます。

今 サイコクヌカボ



湿地や田んぼのあとなどに生える草丈50cmほどのタデの仲間です。たくさん枝分かれして茎の下の方は地面をはいます。夏から秋にかけて小さな花をつけます。

今 ジュンサイ



ため池などに生える水草で、楕円形の葉を水面に浮かばせます。夏に暗い赤色の1.5cmほどの目立たない花をつけます。芽はゼリー状で食用になります。

今 ヒツジグサ



池や沼に生える水草で、葉や花を水面に浮かばせます。夏の昼間にスイレンに似た白い美しい花を咲かせます。未の刻(午後1～3時)に咲くことが名前の由来です。

今 ミソナオシ



林の縁や道ばたに生えます。葉は3枚セットで、夏から秋にうす黄色のハギに似た花をつけます。豆の形をした実にはかぎのような毛があり、服にくっつきます。

明石市の大切にしたい生きもの ～明石市レッドリスト～ とは？

「明石市の大切にしたい生きもの ～明石市レッドリスト～」は、明石市にいる生きもののうち、すみかがなくなったり数が減ったりして、このままでは明石市からいなくなってしまうかもしれない種、または前に明石市にいましたが、今は見られなくなっている種をリストにしたものです。

どのような生きものがどれくらい減っているのかがわかるよう、リストの生きものは次の4つのカテゴリーに分けています。

カテゴリー	説明
A	特に減っている種。明石市で数が特に少ない種、または生息・生育環境が悪くなっていて、その環境を守らなければならない種。
B	減っている種。明石市で数が少ない種、減ってきている種、またはよい自然環境の目安になる種で、その環境を守りたい種。
要調査	情報が十分になく判断が難しい種。
今見られない	明石市にはいたが、今は見られない種。

※説明はやさしい文章に書きかえています。またカテゴリーの順序を入れかえています。正式な定義、順序は明石市ホームページをごらんください。

明石市でこれまでに
見つかった生きものの
11%にあたる277種が
選ばれています。



分類群	A	B	要調査	今見られない	合計
哺乳類	2	3			5
鳥類	11	21	17		49
爬虫類	2	2			4
両生類	4	1			5
魚類	4	12	1		17
昆虫類	9	23	46	3	81
植物	31	59	11	15	116
合計	63	121	75	18	277

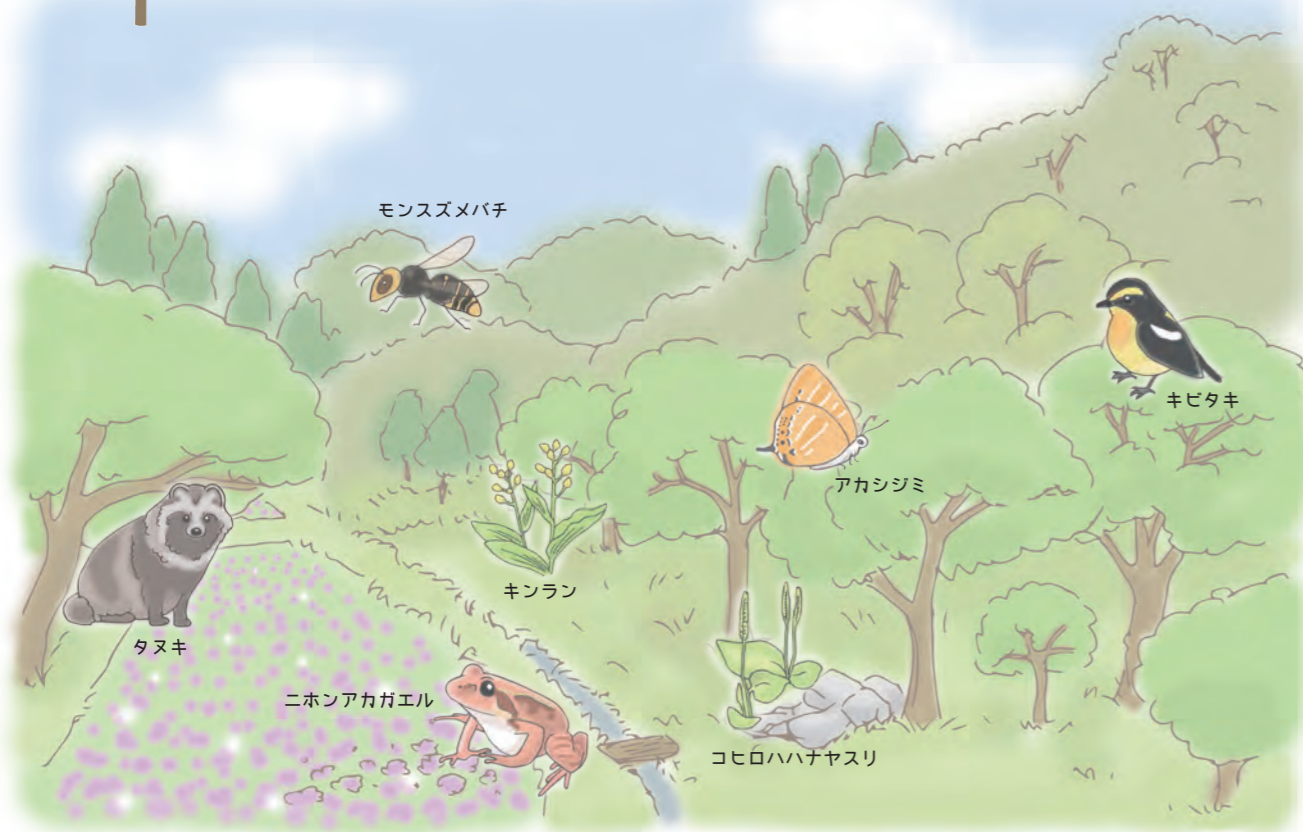
明石市の環境と生きもの

たくさんの方がくらす明石市。生きものにとって大切な環境は、どのような場所でしょうか。また、そこにはどのような生きものがいるのでしょうか。



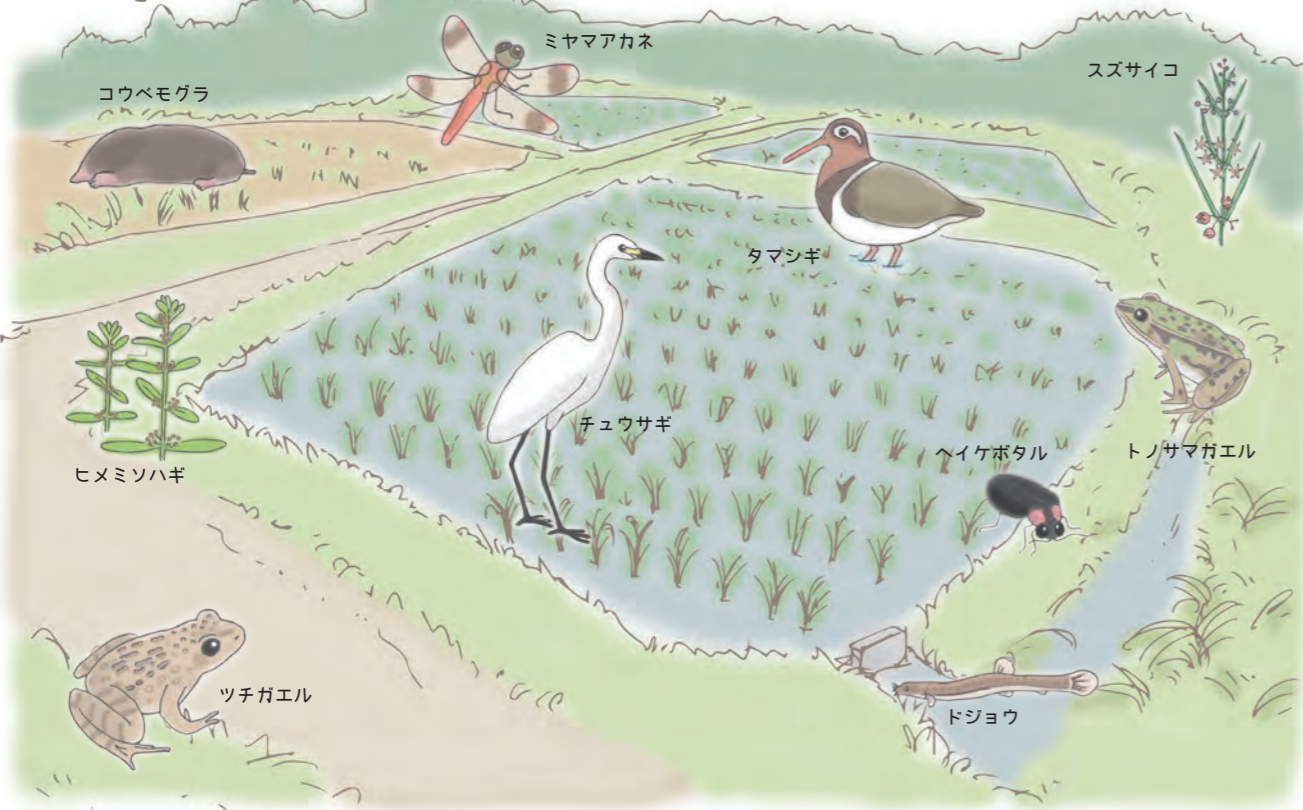
里山林

明石市には高い山や広い山地はありませんが、おおくほまつかげ大久保町松陰・松陰新田には、まとまった里山林がのこ残されています。里山林は、じゆりん樹林にくらす生きものはもちろん、しゅうへん周辺のため池・しつち湿地や水田と林を行き来して生活する生きものにとっても、か欠かせない場所になっています。



のうこうち 農耕地

しがいち市街地の多い明石市ですが、ちいき西部地域には水田や畑などの農耕地が見られます。田んぼにくらすカエルやトンボ、水路にすむメダカやドジョウ、それらを食べる鳥、あや畦のような明るい草地に生える植物など、はぐく農耕地は多くの生きものを育んでいます。田んぼや畑がなくなると、これらの身近な生きものも姿を消してしまいます。



B コマツカサスキ



日当たりのよい湿地やため池の畔に生えます。高さ80~120cmで、茎の断面は三角形で葉は細長く、8~10月に丸く集まった花をつけ、その後には果実となります。

B ケシンジュガヤ



日当たりのよい湿原に生える高さ10~20cmの小さな草です。7~10月に茎に2~3個のうす灰色の目立たない花をつけます。葉や茎に毛があります。

B マネキシングヤ



日当たりのよい湿地や湿原に生える高さ10~30cmの草で、7~10月に茎に2~3個のうす灰色の目立たない花をつけます。葉や茎に毛がありません。

B ギンラン



林の地面に生える高さ20~40cmのランの仲間です。葉を3~6枚出し、5~6月に茎の先に半分開いた形の数個の白い花をつけます。

B シュンラン



少し乾いた林に生えるランの仲間です。葉は長さ20~35cm、幅0.6~1cmで、3~4月に高さ20cmほどの茎の先にうす黄緑色の花を1個つけます。

B カキラン



日当たりのよい湿地に生える高さ30~70cmのランの仲間です。長さ7~12cmの葉をつけ、6~8月に茎の上の方にうす橙色の花を10個ほどつけます。

B コクラン



暗い林の地面に生える高さ15~30cmのランの仲間です。葉は楕円形で、先はとがります。6~7月に暗い紫色の花を5~10個つけます。

要 イワハリガネワラビ



川沿いの岩の上や岩壁に生える高さ30~60cmほどになるシダ植物です。軸の左右に細長い葉がつき、全体は長さ25~40cmの三角形の葉となります。

要 ナチシケシダ



湿った草地や林の縁などに生え、高さ1mほどになるシダ植物です。軸の左右に細長い葉がつき、全体は長さ10~50cmの細長い三角形の葉となります。

要 マツグミ



アカマツやモミなどの枝や幹に生え、水や栄養を分けてもらいながら育つ植物です。7~8月に赤色の小さな花をつけます。果実は丸く、秋に赤く熟します。

要 イスノキ



高さ20mになる木です。葉は長さ5cmほどで、虫こぶ(虫が寄生して葉の表面にできた小さなこぶ)がついていることが多いです。3~5月に目立たない花をつけます。

要 ハマウド



海岸に生える高さ1~1.5mの草です。茎は上のほうで枝分かれして、光沢のある葉をつけます。4~6月に白い小さな花が集まった花をつけます。

B ヤマラッキョウ



湿った草地や湿地・畦に生え、長さ30cm程の細長い葉をつける草です。花をつける茎は高さ50cm程で、9～11月に3～5cmのピンク色の花をつけます。

B ノシラン



海に近い林の地面に生えます。厚く、細長い葉をつけます。7～9月に下向きに開く白い花をたくさんつけ、冬には果実が美しいこい青色に色づきます。

B ヤブミョウガ



林の中に生え、花をつけると高さ50～100cmになります。8～9月に白い花をつけ、1日でしぼみます。果実は秋に熟すと青紫色になります。

B チョウセンガリヤス



乾いた岩場などに生えます。高さ30～60cm、葉は長さ3～8cm、幅3～6mmで、8～10月に目立たない花をつけます。

B ヌマカゼクサ



湿地やため池の畔に生えます。高さ30～50cm、細長い葉は幅2～6mmで縁はざらつきません。8月～11月に目立たない花をつけます。

B ナルコビエ



河原や農耕地の周辺などに生えます。高さ40～70cmで、全体に毛が生えています。8～10月に茎の上のほうに果実をつけます。

B ウキシバ



ため池や沼に生えます。茎は1mをこえることがあります。茎は水面に浮く場合と立ち上がる場合があります。8月に茎の先にイネに似た花をつけます。

B クロカズスゲ



水田の畦や農耕地周辺、地面が砂の湿地に生えます。高さ10～30cmで葉は幅2～3mm。5～6月に茎の上のほうにかたまって茶色い花をつけます。

B コウボウムギ



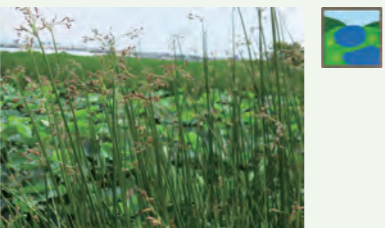
海岸の砂地に生える高さ10～20cmの草です。雄株と雌株に分かれて生え、4～5月に花びらのない花が集まって咲き、その後茶色い果実となります。

B ミカツキグサ



山の湿原や湿地に生える高さ10～50cmの草です。葉は幅0.5～1mmで細く、茎より短いです。7～10月に白色の花をつけます。

B フトイ



池や湿地に生える、高さ1mをこえる大型の植物です。地面の下の茎で広がり、そこから茎を伸ばし先端に茶色の花をつけます。生け花にも使われます。

B ノグサ



日当たりのよい湿地に生えます。茎や葉は細くまとまって、束になって出ます。6～8月に、高さ20～40cmの茎の先に目立たない花をつけます。

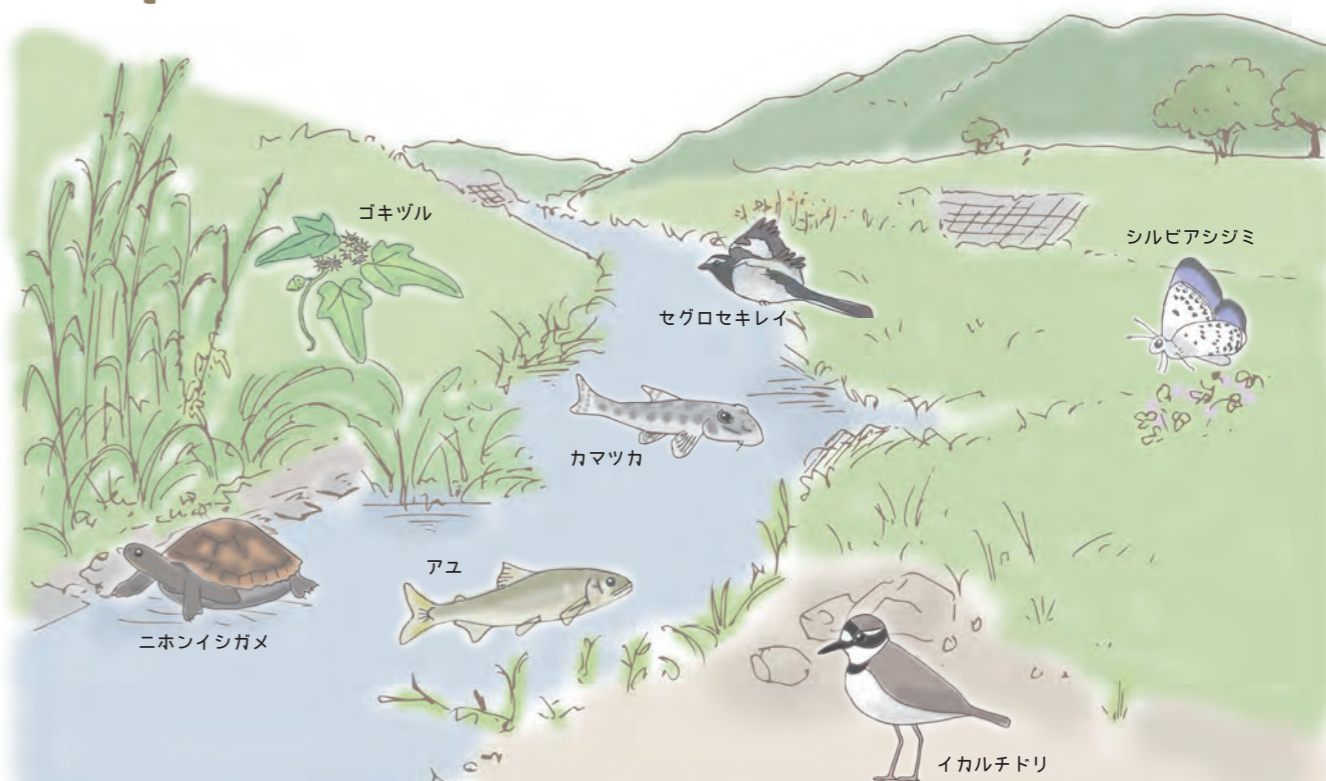
ため池

昔から水不足に悩まされてきた明石市には、数多くのため池があります。ため池や湿地には、流れのない水の中で生活する昆虫や魚、これをエサに集まる鳥、水草や水辺に生える植物など、たくさんの生きものがくらしています。中には絶滅が心配されるオニバスなどの希少な生きものも見られます。



がせん 河川

明石川をはじめとして、朝霧川、谷八木川、赤根川、瀬戸川などの河川が明石市を流れ、瀬戸内海へ注ぎます。水の中にはカマツカなどの魚、石の多い河原にはイカルチドリなどの鳥や虫、河川敷には草地の植物など、川は多くの生きものすみかであるとともに、生きものが他の場所へ移動するときの通り道としても大切な役割を果たしています。



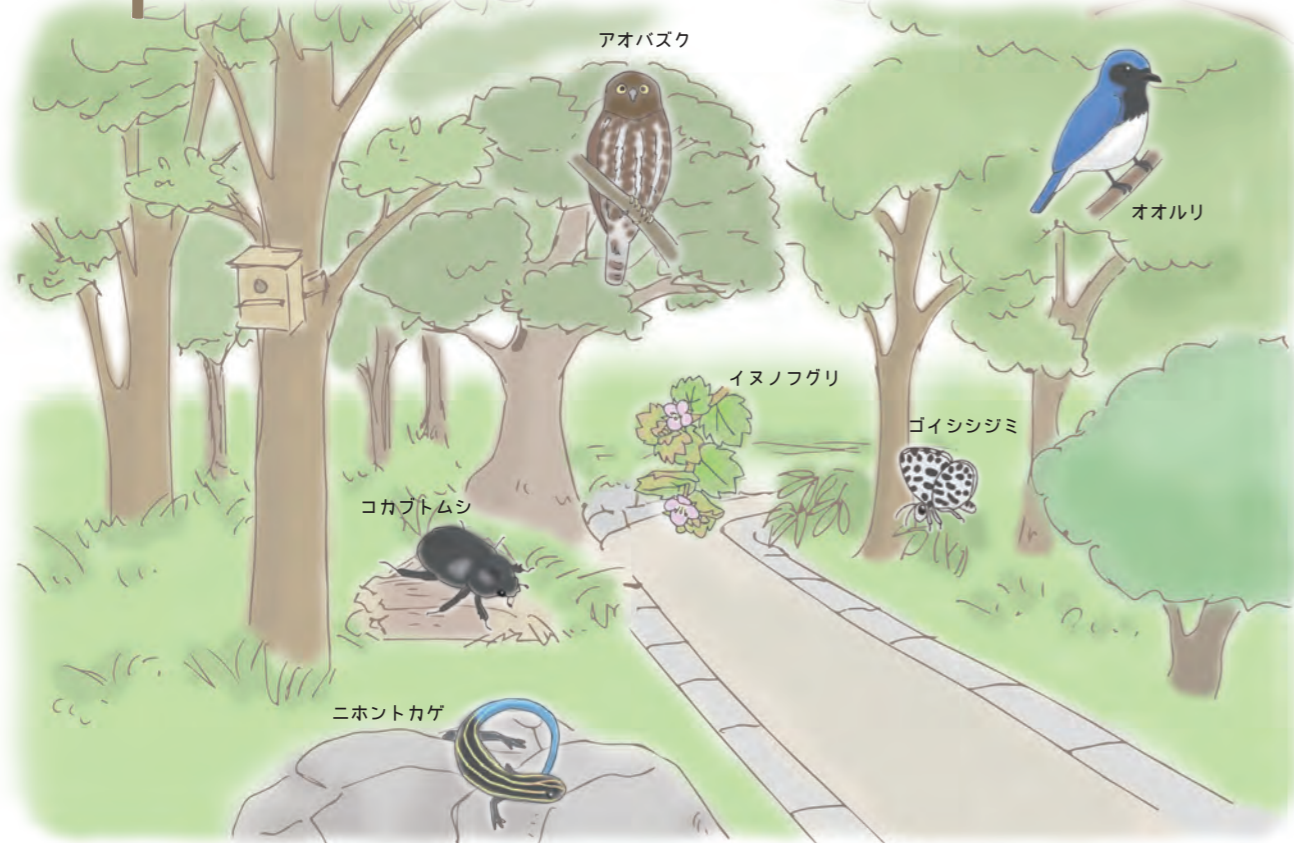
海岸

海に面した明石市は、東の大蔵海岸から西の魚住海岸まで、16kmの長い海岸線を持ちます。海岸の多くは人の手で整備された人工海浜ですが、整備されてから年月が経ち、今ではいろいろな生きものを見ることができます。特に明石川より西では砂浜が多く、いろいろな海浜植物が生育しています。



公園

明石市には、明石公園と金ヶ崎公園という大きな公園があります。どちらの公園にも広い林や池があり、市街地が広がる明石市の中で、生きものすみかとして大切な場所になっています。この他にも、街の中の公園やお寺、神社の森には、意外といろいろな生きものがすんでいます。



B シロネ



河川やため池の湿地に生えます。高さ80～120cmで、茎の断面は四角で、8～10月に白い花を葉のつけねにつけます。地下の茎が白いことが名の由来です。

B イヌノフグリ



道ばたの石垣のすきま、畑の畦道、草地などに生えます。3～4月にオオイヌノフグリに似た3～4mmの小さなピンク色やうす紫色の花をつけます。

B オギノツメ



湿地や用水路わきに生えます。高さ30～70cm、茎は四角で、8～11月に葉のつけねにうす紫色の1～1.3cmの花を数個つけます。

B ホザキノミミカキグサ



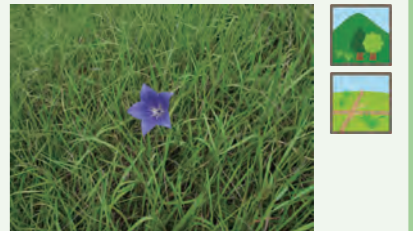
日当たりのよい栄養分の少ない湿地に生える高さ5～20cmの食虫植物です。6～9月に茎の先にうす紫色の4～5mmの花を数個つけます。

B オミナエシ



日当たりのよい草地に生えます。高さ60～100cmで、8～10月、茎の上の方が枝分かれてその先に小さな黄色の花をつけます。秋の七草のひとつです。

B キキョウ



日当たりのよい草地に生えます。高さ40～100cmで、夏に茎の先に青紫色の花を数個つけます。楕円形の果実をつけます。秋の七草のひとつです。

B サワシロギク



日当たりのよい湿地やため池の畔などに生えます。高さ50～80cmで、8～10月に茎の先に白、のちに紅色となる花をつけます。

B キセルアザミ



湿地に生えます。花をつける茎は高さ50～100cmで、9～10月に先に紫色の花を横向きにつけ、咲き終わると花は上向きになり、毛がついた種を飛ばします。

B スイラン



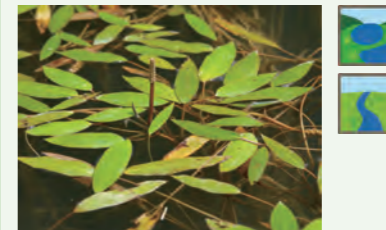
水辺または湿地に生えます。茎は細く、よく枝分かれます。花をつける茎は高さ50～100cmで、9～10月に先に3cmほどの黄色の花をつけます。キクの間です。

B ウリカワ



水田や湿地に生えます。葉は長さ4～18cm、幅3～10mm、花をつける茎は高さ5～20cmで、7～9月に白色の雄花と雌花を別につけます。

B ヒルムシロ



ため池、水田、河川などに生える水草です。水中の葉は細長く、水面の葉は楕円形になり、6～10月に水の上に棒のような形の黄緑色の花をつけます。

B ホツスモ



ため池、用水路などの水中に生える水草です。茎はよく枝分かれ、葉は細長く、1～2.5cmほどです。9～11月に葉のつけねに小さな花をつけます。

B マキエハギ



日当たりのよい乾いた道ばたや岩地などに生えます。高さ40～60cmになります。8～9月に白い花を数個つけ、豆のような果実をつけます。

B ヒナノカンザシ



日当たりのよい湿地やため池の畔に生えます。高さ6～25cmの小さな草です。8～10月にうす紫色の1～2mmの小さな花をまばらにつけます。

B カラスノゴマ



畑や道ばたに生えます。高さ30～60cmになります。葉は卵型で、先は少しとがります。夏に葉のつけねに黄色い花をつけ、秋には細長い果実となります。

B ゴキヅル



水辺に生えるつる植物です。花は夏から秋に雄花と雌花が別につきます。丸い果実は熟すとふたが取れるように割れ、中には2個の黒い種が入っています。

B ヒメミソハギ



水田や湿地に生えます。柔らかい葉は対になって生え、9～11月にうす紫色の小さな花を葉のつけねにつけます。果実は丸く、黒色に熟します。

B ミズユキノシタ



沼や水路などの水の中や湿地に生えます。茎は枝分かれし地面をはいます。6～10月に葉のつけねにうす黄緑色の小さくて目立たない花をつけます。

B タチモ



池、水田などの浅いところや水際に生える水草で、水の量にあわせて形を変えます。6～9月に葉のつけねに小さな花をつけます。

B ハマボウフウ



海岸の砂地に生えます。高さ5～30cmで、葉は厚くて光沢があり、食べることができます。5～7月に茎の先に白い小さな花が集まってつきます。

B リンドウ



山や野に生える高さ20～100cmの草です。細長い葉には3本のすじが目立ちます。秋に紫色の4cmくらいの花を数個つけます。

B ホソバリンドウ



湿地や湿った場所に生え、草丈は30～100cmほどになります。秋に紫色の花をつけます。湿地に生えるリンドウの種類でリンドウに比べて葉が細いです。

B クマツツラ



野の道ばたに生えます。高さ30～80cmで、茎は直立し四角く、6～9月に4mmほどのピンク色の小さな花がたてにならんでたくさんつきます。

B ハマゴウ



海岸の砂浜に集まって生えます。高さ30～70cmで、茎は砂の上をはい、枝は立ち上がります。7～9月に枝先にうす青紫色の花をたくさんつけます。

明石市レッドリストの生きもの

哺乳類

A: 2種
B: 3種

A コウベモグラ



草原や農耕地、森林にすんでいます。土の中にトンネルを掘って、ミミズや虫を食べます。掘った土が地面に盛り上がったものを「モグラ塚」といいます。

モグラ塚



A カヤネズミ



日本で一番小さいネズミで、ため池の周りなどの背の高い草地にすんでいます。ススキやチガヤなどの草の葉を編んで丸い巣をつくり、その中で子育てをします。

カヤネズミの巣

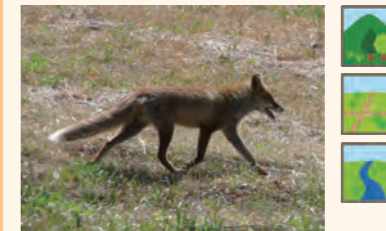


B タヌキ



山の森から人里近くの雑木林、公園の林などにもすんでいます。果物やドングリ、虫、ミミズ、カエル、サワガニなど、いろいろなものを食べます。

B キツネ



里山の森林に暮らし、草原や農耕地にも姿を見せます。ネズミや小鳥、虫などの動物のほか、果実も食べます。土の中に巣穴を掘って子育てをします。

B ニホンアナグマ



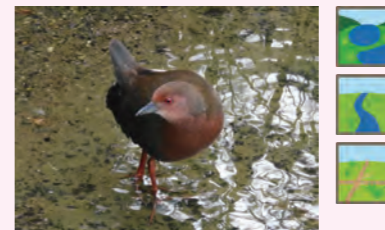
森林やササやぶに暮らし、長いトンネルを掘って生活します。夜にミミズや虫、カエル、果物やドングリを探して歩きます。冬は巣穴で冬ごもりをします。

鳥類

A: 11種
B: 21種
要調査: 17種

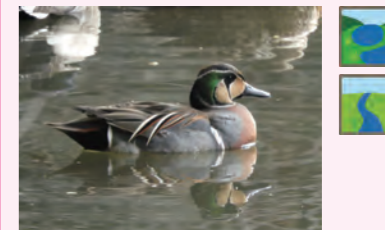
生きものの説明の見方はこちら

A ヒクイナ



水田や湿地、池、河川にすんでいます。歩きながら虫やカエル、エビなどを探し、草の種も食べます。夕方から夜に、「キョッキョッキョッキョ…」と鳴きます。

A トモエガモ



冬を日本で過ごす渡り鳥で、池や河川で見られます。オスの顔は、うす黄色と緑、黒の三色の巴（ともえ）模様。メスは全体に茶色っぽい色をしています。

A 生きものの名前

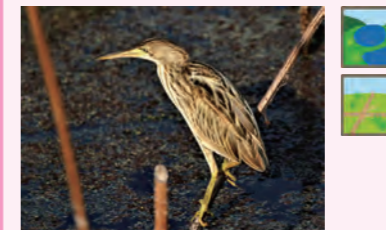
カテゴリー:
A、B、要(要調査)、
今(今見られない)

見られる環境:
p1参照

<写真・イラスト>

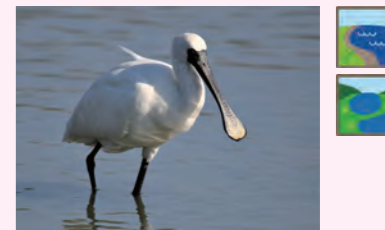
<見られる時期や行動、特徴など>

A ヨシゴイ



夏を日本で過ごす渡り鳥。ヨシ原、湿地、水田などで子育てをします。草の中にいることが多い鳥です。じっと動かず待ちぶせして、魚やカエルを捕まえます。

A クロツラヘラサギ



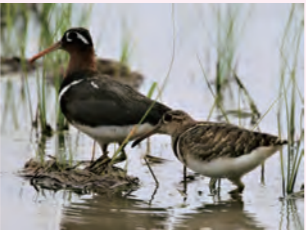
冬または渡りの時期に見られるトキの仲間。黒い顔とヘラのようなくちばしの特徴です。海岸や池、水田などの浅い水の中で、エサをとったり休んだりします。

A シロチドリ



海岸や海に近い川にすんでいます。砂浜をチョコチョコと走っては小さな虫などを捕まえます。明石市の海岸では卵を産み、ヒナを育てる様子が見られます。

A タマシギ



オスが子育てをする鳥で、メスのほうが目立つ色をしています。水田や湿地でくらし、姿はあまり見られませんが、初夏の夜、メスは「コウコウ」と鳴きます。

A コアジサシ



夏を日本で過ごす渡り鳥で、海や池の上を低く飛んで魚を捕まえます。海岸や河原、時には工事現場などの砂や石の多い広い場所に集まって、子育てをします。

B ハンゲショウ



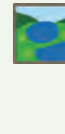
水辺や湿地に生える高さ50～80cmの草です。6～8月の花の時期に、花の下の葉の一部が白色に変わります。花は小さく目立たない白い花です。冬には葉は枯れます。

B ウマノスズクサ



林の縁や土手などの草地に生えるつる植物です。夏に花びらのない花をつけます。この花が馬につける鈴の形に似ていることからこの名前がつけました。

B イシモチソウ



湿地に生える高さ20cmほどの食虫植物です。葉の毛から出す粘液で虫を捕まえます。5～6月に1.5cmくらいの白い花をつけます。

A ミサゴ



海や大きな川、池の近くでくらすタカ仲間です。大きな体で水の中へ豪快に突っ込んで魚をとります。長い翼に白いお腹、目を横切る黒い線が特徴です。

A オオタカ



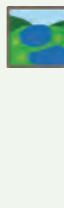
山地の森林から人里近くの林にくらす、カラスと同じくらいの大きさのタカの仲間です。林や草地で、鳥やウサギなどの動物を捕まえて食べます。

A アオバズク



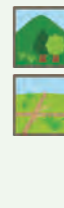
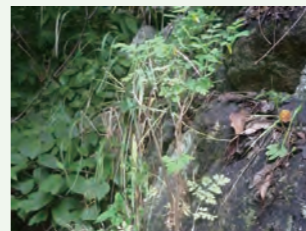
夏を日本で過ごし、里山やお寺などの森で子育てをするフクロウの仲間です。夜に活動し、昼間は休んでいることが多いです。「ホツ、ホツ」と鳴きます。

B トウカイコモウセンゴケ



日当たりのよい湿地に生える食虫植物です。葉の毛から出す粘液で虫を捕まえます。冬でも赤い葉をつけています。6～9月にはうす紅色の花を数個つけます。

B キケマン



日当たりのよい道ばたなどに生えます。高さは40～60cm。4～5月に長さ15～20mmの黄色い花をたくさんつけ、細長い果実ができます。

B コイヌガラシ



水田や湿地などに生えます。高さ10～40cmで、春または秋に葉のつけねに黄色い花をつけます。果実は棒のような形で、葉のわきに1つずつつきます。

A カワセミ



川や池のそばでくらす小鳥です。背中が明るい青色、お腹はオレンジ色をしていて、その姿は「青い宝石」ともいわれます。水に飛びこんで魚を捕まえます。

B クイナ



背の高い草の生えた水辺にくらし、姿を見ることの少ない鳥です。大きな足で水辺を歩き回って、虫などの小さな動物や草の種などを食べます。

B コクガン



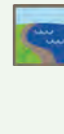
海にくらすガンの仲間です。海岸の近くで海藻を食べます。冬に日本にやってくるが、北海道や東北地方に多く、兵庫県で見つかることは珍しい鳥です。

B メノマンネングサ



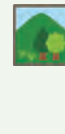
海岸から山地の尾根や岩の上、石垣などに生えます。高さ10～15cmで、厚みのある葉をしています。5～6月に黄色い星形の花を茎の先につけます。

B タイトゴメ



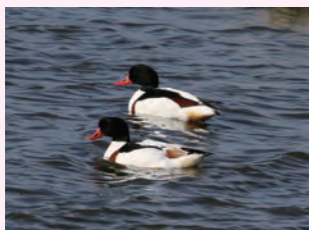
海岸の岩の上に生えます。茎は長くはって枝分かれし広がります。葉は厚みがあり緑色です。5～7月に茎の先に星形の黄色い花を3～10個つけます。

B マルバマンネングサ



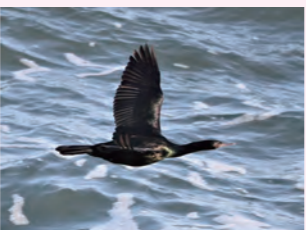
岩や石垣の上に生えます。茎は地面をはい、その途中から根を出します。6～7月に、高さ8～20cmの茎の先に星形の黄色い花をつけます。

B ツクシガモ



冬を日本で過ごす渡り鳥で、海辺に多いカモの仲間ですが、明石市ではため池で見られます。白い体に黒い頭、ピンク色のくちばしが特徴です。

B ヒメウ



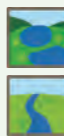
海にすむウの仲間で、青や緑に光る黒い体をしています。よく見られるカワウやウミウより小さく、顔が黒いのが特徴です。水に潜って魚などを食べます。

B チュウサギ



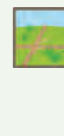
夏を日本で過ごす渡り鳥で、水田や畑でカエルや虫などを食べます。同じ仲間のダイサギやコサギと比べると、水辺よりも農耕地や草地にいることが多いです。

B タコノアシ



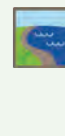
河川敷に生えます。高さ30～70cmで、8～10月に白い花をつけます。秋の終わりごろ、果実や草全体が赤く色づき、タコの足を思わせます。

B タヌキマメ



日当たりのよい草地や道ばたに生えます。茎や葉などに茶色の毛がたくさん生えています。7～9月に枝先に青紫色の1cmほどの花をつけます。

B ハマエンドウ



海岸の砂地に生えます。葉の先は巻きひげになり、茎は地をはって長さ1mほどになります。4～7月に赤紫色、のちに青紫色になる花を数個つけます。

A カガシラ



湿地に生える高さ5～15cmほどの小型の草です。2cmくらいの短く細長い葉をつけます。うす黄緑色の目立たない花をつけ、7～10月に熟します。

A キンラン



明るい林の中や林の縁の地面に生える高さ30～70cmのランの仲間です。冬には葉を落とします。5月ごろに黄色い花をつけます。

A サギソウ



日当たりのよい湿地に生える高さ15～40cmのランの仲間です。8月に先端近くに3cmくらいの鳥のサギに似た白い美しい花を1～3輪つけます。

A ミズトンボ



日当たりのよい湿地に生える高さ40～80cmのランの仲間です。7～9月に1cmくらいの特徴的な形のうす黄緑色の花をたくさんつけます。

A インシュウムヨウラン



林の中の日陰に生える高さ20～30cmの葉をつけない腐生(自分で栄養を作らない)ランの仲間です。5～6月に1.5cmくらいのうす茶色の花を数個つけます。

A フウラン



木の幹や岩の上に生えるランの仲間です。茎は短く立ち、長さ5～10cmほどの細く硬い葉をすきまなくつけます。6～7月に香りのよい白い花をつけます。

A コバノトンボソウ



日当たりのよい湿地に生える高さ20～40cmのランの仲間です。葉はふつう1枚で、6～8月にうす黄緑色の小さく目立たない花を数個つけます。

A トキソウ



日当たりのよい湿地に生えるランの仲間です。葉は茎に1枚だけつきます。5～6月に20cmくらいの花茎をのぼし、先端にピンク色の花をつけます。

B ミズスギ



日当たりのよい水田わきの濡った所に生える、つる性のシダ植物。茎は地面を長くはい、所々で直立した茎を出し、その先に胞子がつまった穂を1～2個つけます。

B ヒメミズワラビ



水田、水路、ため池などに生えるシダ植物です。胞子をつける葉は裏側にそり返って棒のようになり、その他の葉はいろいろな大きさや形をしています。

B イチイガシ



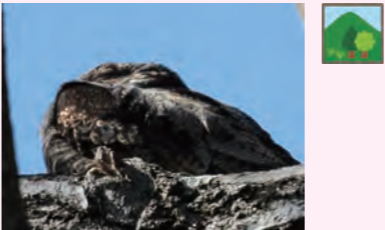
山地に生える高さ10～20mの木です。葉の裏に茶色っぽい毛が生えています。4～5月に雄花と雌花を別につけます。果実(ドングリ)は秋に熟します。

B カワラナデシコ



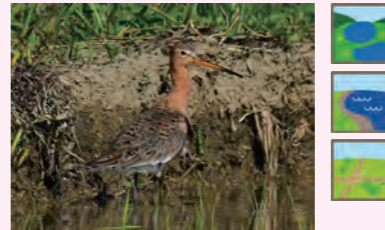
日当たりのよい草地や河原に生えます。高さ30～80cmで、7～10月に5枚のうすピンク色の花びらを持つ花をつけます。秋の七草のひとつです。

B ヨタカ



夏を日本で過ごす渡り鳥で、山地の森林や草地で、夜に飛びながら大きな口で虫を捕まえます。昼間は木の枝そっくりの色で、じっととまって休みます。

B オグロシギ



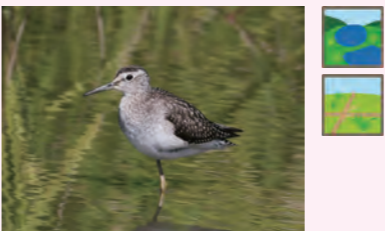
春と秋に日本に立ち寄り渡り鳥。水田や湿地、海岸などで虫やミミズなどを食べ、羽を休めます。春は頭から胸が赤茶色ですが、秋にはうすい色になります。

B アカアシシギ



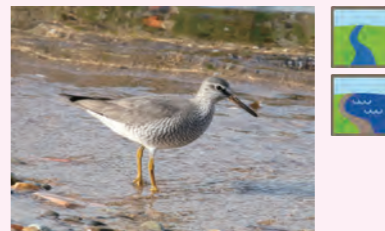
春と秋、旅の途中に日本に立ち寄り渡り鳥です。海辺や湿地で虫やゴカイなどの動物を食べます。名前のとおり、赤い足とくちばしが特徴です。

B タカブシギ



春と秋に日本に立ち寄り渡り鳥。水田や湿地、川などで見られます。こげ茶色の背中にはタカの羽のような細かい斑点があり、「鷹斑」の名がつけました。

B キアシシギ



春と秋に日本に立ち寄り渡り鳥。海辺や川、水田などで見られます。胸の細かいしま模様と黄色い足が特徴で、シギの仲間の中では目にする事の多い鳥です。

B キョウジョシギ



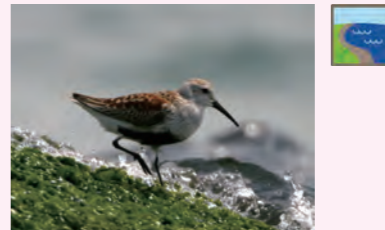
春と秋に日本に立ち寄り渡り鳥で、海辺や川で見られます。茶色と黒のまだら模様の背中が京都の女性の着物にたとえられ、「京女」の名がつけました。

B オジロトウネン



春と秋に日本に立ち寄り渡り鳥で、冬を日本で過ごすものもいます。浅い水辺や泥地で虫などを食べます。よく似たトウネンは足が黒色で、この種は黄緑色です。

B ハマシギ



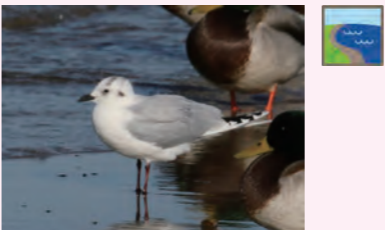
春と秋に日本に立ち寄り渡り鳥。冬を日本で過ごすものもいます。海辺などで虫やゴカイを食べます。群れていることが多く、大群が一斉に飛び様子は壮観です。

B セイタカシギ



春と秋に日本に立ち寄り渡り鳥。黒と白の体に長く赤い足をもつ、スマートな鳥です。水田や湿地でくちばしを水にさしこみながら、虫などの食べ物を探します。

B スグロカモメ



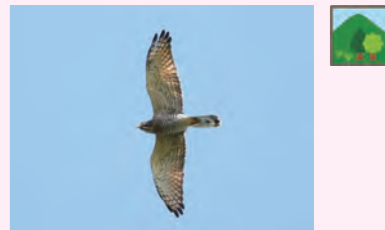
冬を日本で過ごす渡り鳥で、海辺に多くのカモメの仲間。夏には頭が黒くなるので「頭黒」の名がありますが、日本にいる冬には白い頭をしています。

B ハチクマ



夏を日本で過ごす渡り鳥で、山地の森林にすむタカの仲間です。小さな動物を食べますが、特に虫のハチが好きなことから、「ハチクマ」の名前がつけました。

B サシバ



夏を日本で過ごす渡り鳥で、里山の森林で子育てをするタカの仲間です。山の近くの水田で、カエルやヘビなどを捕まえます。「ピックイー」と鳴きます。

B フクロウ



巣になる穴のある大きな木の生えた、山地の森林にすんでいます。昼間は休んで夜に活動し、ネズミなどを捕まえます。「ゴロツホ、ホッホ」と鳴きます。

B ハヤブサ



山地や海岸、川、農耕地など開けた場所で見られます。飛んでいる鳥を高いところから急降下して捕まえます。山地や海岸の崖に巣を作って子育てをします。

B オオヨシキリ



夏を日本で過ごす渡り鳥で、背の高い草の生える川や池の周りの草地などで見られます。初夏から夏、大きな声で「ギョギョシ、ギョギョシ」とよく鳴きます。

B キビタキ



夏を日本で過ごす渡り鳥で、山地から人里の木のよく茂った森で見られます。オスは黒い羽に黄色の胸があざやかです。メスは目立たない色をしています。

要 ササゴイ



夏を日本で過ごす渡り鳥。羽のササの葉模様から「ササゴイ」の名がつけました。川や池でじっと動かさずねらいを定め、魚やカエルを捕まえます。

要 ヘラサギ



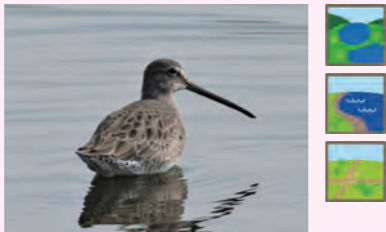
冬を日本で過ごす渡り鳥で、トキの仲間です。海辺や湿地、池などで、ヘラのように先が広がったくちばしでエサをとったり、首を背中に乗せて休んだりします。

要 イカルチドリ



川の中の石の多い河原や中州などで見られる小鳥です。石によく似た模様の卵を産み、生まれたヒナも石のような色をしています。「ピオ」などと鳴きます。

要 オオハシシギ



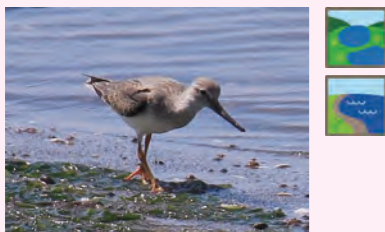
春と秋に日本に立ち寄る渡り鳥で、冬を日本で過ごすものもいます。池や水田、海岸などで、浅い水辺を歩いてくちばしを泥の中にさしこみ、エサを探します。

要 コアオアシシギ



春と秋に日本に立ち寄る渡り鳥で、冬を日本で過ごすものもいます。長い足で水田や湿地、海辺などの浅い水辺を歩き回り、虫や貝などのエサを探します。

要 ソリハシシギ



春と秋に日本に立ち寄る渡り鳥で、海辺などで見られます。オレンジ色の足と、上にそったくちばしが特徴です。小走りに動き回り、特にカニをよく食べます。

要 オオアジサシ



日本の南の島で子育てをする鳥で、明石市で見られることはそれほど多くありません。くちばしが黄色く背中が灰色で、頭の黒い羽は長くボサボサしています。

要 アジサシ



春と秋の渡りの時期に、海の上や海辺で見られます。春には海の上を大群で飛んで、北へ向かいます。秋には海辺で羽を休め、南への長旅に備えます。

A スズサイコ



日当たりのよい草地に生えます。高さ40～100cmで細長い葉をつけます。夏にうす茶色の花をつけ、夜に開き、日が当たると閉じます。秋に細長い袋のような実をつけます。

A ゴマクサ



日当たりのよい湿地や用水路わきに生えます。高さ30cmほどで、葉は細長い形をしています。8～9月に葉のつけねに黄色い花を1つつけます。

A ノタヌキモ



ため池に生える水草です。茎はよく枝分かかれし、長いと1.5mにもなります。花の茎は水の上に出て、その上の方に黄色い花を数個つけます。

A ミカワタヌキモ



ため池や湿地に生える食虫植物です。細い茎をからめて水中に浮かぶが、湿地に集まって生えます。8～9月に茎を水の上に伸ばし、黄色い花を数個つけます。

A ムラサキミミカキグサ



栄養分の少ない湿地に生える食虫植物です。地中の葉と地上の葉で形が違います。8～9月に10cmほどの茎を伸ばし、小さな紫色の花をつけます。

A オグルマ



湿地や休耕地、川岸などに生えます。高さ30～50cmで、地面の下の茎を伸ばして広がります。8～10月に3cmほどの黄色い花をつけます。

A ミズオオバコ



水田やため池、水路に生える水草です。オオバコに似た葉をつけることが名前の由来です。8～10月に白やうす桃色の花びら3枚の花をつけます。

A ノカンゾウ



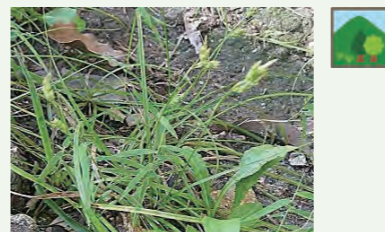
水田の畦や野原に生えます。高さ70～90cmになります。幅1cmくらいの細長い葉をつけ、7～8月にオレンジ色の大きな花をつけます。

A モロコシガヤ



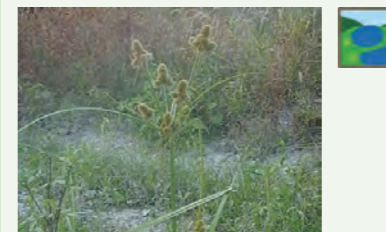
明るい草原に生えます。高さ50～100cmで、葉は長さ20～50cm、幅5～10mmの細長い形です。9～11月に茶色の花をつけます。

A センダイスゲ



明るい林の地面に生えます。高さ10～30cmで、茎が地面を長くはいます。8～10月に、上の方が雄花、下の方が雌花である花をつけ、その後実がなります。

A ヌマガヤツリ



湿地、河川敷など、増水の影響を受ける所に生え、高さ30～120cmになります。長い茎から花をつける枝を3～5本出し、茶色の花穂をつけ、秋に果実が熟します。

A ネビキグサ



海岸近くの湿地や池の畔に集まって生えます。高さ60～100cmで、茎は楕円形です。初夏に茶色い目立たない花をつけます。別名をアンペライといいます。

植物

A : 31 種

B : 59 種

要調査 : 11 種

今見られない : 15 種



A コヒロハハナヤスリ



お墓やお寺の境内、湿った道ばたなどに生える高さ 20cm ほどのシダ植物です。葉を 1~3 枚つけ、それとは別に胞子が入った棒のような形の葉をのぼします。

A デンジソウ



水田や池などに生えるシダ植物です。四つ葉のクローバーに似た形で、「田」という字に似ていることから「田字草」と名づけられました。除草剤の影響で激減しています。

A サンショウモ



水面に葉を浮かべ、土に根を張らない浮草タイプのシダ植物です。冬には枯れてしまいます。葉の形が木のサンショウに似ていることから名づけられました。

A サクラバハノキ



湿地に生える高さ 10m くらいになる木で、サクラに似た葉をつけることが名前の由来です。2~3 月ごろ花びらのない花をつけます。冬には葉を落とします。

A サデクサ



川沿いや湿地などに生えます。茎には下向きのとげがあり、大きくなると周囲の草に寄りかかります。葉は矢じり形です。夏から秋に白い小さな花をつけます。

A オニバス



ため池に生える水草で、トゲのある大きな葉を水面に広がります。夏に紫色の花を水の上で咲かせますが、水の中にも開かない花をたくさんつけています。

A アゼオトギリ



水田の畦や用水路わきに生えます。茎が数本地面をはうように伸びて、立ち上がると高さ 10~40cm ほどになります。夏に黄色い花をつけます。

A イワレンゲ



海岸の岩の上、石垣などの乾いた場所に生えます。9~11 月、高さ 10~20cm の茎に、白いたくさんの花が集まって咲きます。1 度花を咲かせると枯れます。

A ナガボノワレモコウ



湿った草地や畦などに生えます。高さ 80~130cm で、秋に、小さな花が集まった赤紫色や白色の花穂*をつけます。花には花びらはありません。

A イヌハギ



河原や海に近い日当りのよい砂地に生えます。茎の下のほうは木のようにかたくなります。葉は 3 枚セットで、7~9 月にうす黄色の花をたくさんつけます。

A イヌセンブリ



野や山の栄養分の少ない湿地やその周辺に生えます。高さ 30cm ほどで、枝分かれます。9~11 月に白い花びらにうす紫色の線の入った花をつけます。

*花穂 : 小さな花が集まって穂のようになったもの

要 マダラウミスズメ



主に北日本で冬をすごす渡り鳥ですが、数が少なく、目にする機会は少ないです。明石の海にもあらわれることがあります。肩の羽が白いことが特徴です。

要 ウミスズメ



冬を日本ですごす渡り鳥で、北海道では夏をこすものもいます。海に潜って、魚やエビなどの動物を食べます。やや太めのうすいピンクのくちばしが特徴です。

要 カンムリウミスズメ



世界でも日本の周りの海にしかいない鳥です。夏に小さな島々で子育てをし、冬には岸から離れた海の上ですごします。うすい水色のくちばしをしています。

要 ツミ



山地の森林から街の公園の林などでも見られる、ハトより小さなタカの仲間です。小鳥や虫を捕まえて食べます。「キークキキキ」などと鳴きます。

要 オオコノハズク



山地の森林にくらすフクロウの仲間です。体は木のような模様をしていて、頭に耳のような羽(羽角)があります。夜、ネズミなどの小さな動物を狩ります。

要 コミミズク



冬を日本ですごす渡り鳥で、河川敷や農耕地などの草地で見られるフクロウの仲間です。杭などにとまってねらいを定め、ネズミなどを捕まえます。

要 サンコウチョウ



夏を日本ですごす渡り鳥で、スギやヒノキのある林を好みます。オスの長い尾と、くちばしと目の回りのブルーが特徴。「ツキヒホシ、ホイホイホイ」と鳴きます。

要 オオルリ



夏を日本ですごす渡り鳥で、山地の森林にくらしますが、渡りの時期には公園の林などでも見られます。オスは頭と背中が青く、メスはうす茶色をしています。

要 セグロセキレイ



川の上流から中流で見られる、白と黒のスマートな小鳥です。長い尾を振りながら地面を歩き、虫を捕まえます。似た仲間に顔の白いハクセキレイがいます。

明石の鳥たち

海に面し、東西に長くのびる明石市。どんな場所にどんな鳥がいるのでしょうか。

日本有数の数を誇るため池には、豊富な水草が育ち、たくさんのサギ類や、冬鳥のカモ類などの水辺の鳥が、エサを食べたり休んだりする場所になっています。春と秋の渡りの季節には、遠くからやってくるシギ・チドリ仲間が羽を休める、渡りの中継地にもなります。

潮の流れの速い明石海峡には魚が多く、カモメなどの海鳥がエサを求めて集まります。海岸の砂浜では、シロチドリが卵を温め、やがて小さなヒナが生まれます。

大きな森の少ない明石市では、森にくらす渡り鳥が明石公園や金ヶ崎公園に集まり、春と秋にはいろいろな種類の鳥を見ることが出来ます。旅の鳥たちにとって、都市の中の公園の緑はオアシスに見えるかもしれません。

明石の鳥たちについては、明石市立文化博物館の『明石の野鳥』に詳しく書かれています。明石の自然と鳥たちのかかわりがよくわかります。ぜひ読んでみてください。

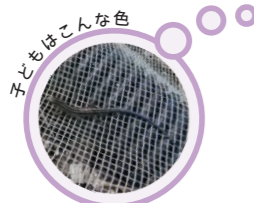
明石いきものコラム

明石の野鳥



はちゅうるい
爬虫類

A: 2種
B: 2種



A アカウミガメ



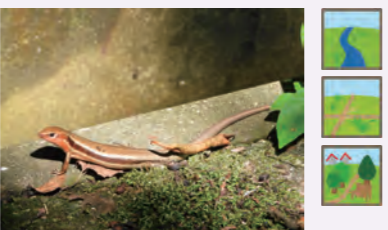
世界の暖かい海に広くすんでいます。このうち日本で卵を産む集団は、メキシコまで泳いでいくことがわかっています。明石市の砂浜でも産卵記録があります。

A ニホンイシガメ



川の上流や中流、山のふもとや池にすんでいます。冬は水の中や落ち葉の下で冬眠します。こうらの色は黄色っぽい茶色で、後ろの縁がギザギザしています。

B ニホントカゲ



日当たりのよい草地や石の多い場所を好みます。冬は土の中や石垣の間で冬眠します。虫やミミズなどを食べ、敵に近づくと尾を切って逃げることがあります。

B ヒバカリ



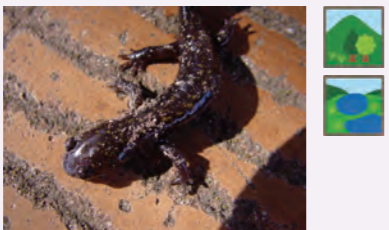
農耕地の周辺にいて、特に水辺を好みます。泳ぐのが上手で、カエルやミミズなどを食べます。首の後ろにななめにうす黄色の模様が入るのが特徴です。

両生類

A: 4種
B: 1種



A セトウチサンショウウオ



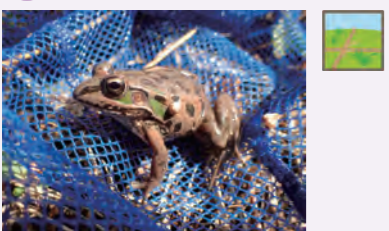
雑木林にすむ小さなサンショウウオです。全身が茶色っぽい色をしています。冬から春、浅い水の中に、透明な卵のうに包まれた卵を産みます。

A ニホンアカガエル



水田の周りの草地や池のそばの森林にすんでいて、クモや虫を食べます。冬に卵を産むと、もう一度冬眠して、暖かくなると動きはじめる習性があります。

A ナゴヤダルマガエル



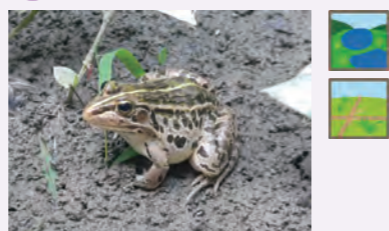
水田にすむ、トノサマガエルによく似たカエルです。虫やクモなどを食べます。水田が減ったり、コンクリートで整備されたりしたため、数が減っています。

A ツチガエル



水田や池にすむ茶色っぽいカエルです。背中にイボがたくさんあり、「イボガエル」ともよばれます。オタマジャクシのまま冬をこす珍しいカエルです。

B トノサマガエル



水田や池にすむ、虫やクモなどを食べています。足が長く、動きの素早いカエルです。春になるとオスは田んぼでなわばりをつくり、夜に大きな声で鳴きます。

要 カラトイスカバチ



林や草地にすむ、成虫は春のおわりと秋に見られます。体が真っ黒な小さなハチで、木にあいた小さな穴に巣を作ってアブラムシを運びこみ、卵を産みつけます。

要 ヤマトトリジガバチ



林や草地にすむ、竹筒の中に泥で固めた巣をつくり、成虫は深い藍色の体をしていて、クモの仲間を捕まえて巣に運びこみ、卵を産みつけます。

要 ナミルリモンハナバチ



明るい林や草地にすんでいます。黒い体にりり色の毛が所々に生えた美しいハチで、夏遅くから秋にかけて見られます。いろいろな花を巡って、蜜を吸います。

要 ヒロバトガリハナバチ



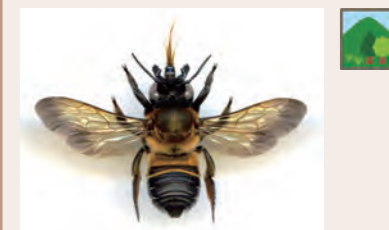
林や周辺の草地にすむ、成虫は春から秋まで見られます。黒い体に白い毛が生え、しま模様に見え、メスのおなかの先はとがっています。いろいろな花を訪ねます。

要 ヤマトハキリバチ



お墓や土手など草が少ない場所にすんでいます。成虫は春に見られ、石のすき間の巣で、切り取った葉でつくったカプセルに花粉をつめ、卵を産みつけます。

要 クズハキリバチ



クズのしげる林の周りにすむハキリバチの仲間です。成虫は夏に見られ、古くて大きな木にあいた穴を巣として使い、主にクズの葉を切り取って運びこみます。

要 キバラハキリバチ



海辺や河川敷の砂地にすんでいます。成虫は夏から秋に見られ、地面に穴を掘って巣をつくり、切り取った葉のカプセルに花粉をつめ、卵を産みつけます。

今 ベッコウトンボ



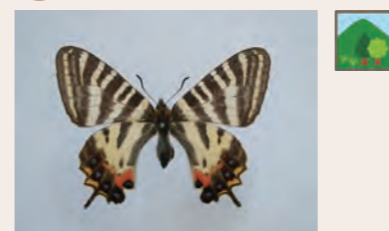
ヨシが生えた明るい池にすんでいます。成虫は春から初夏に見られ、水辺でなわばりを張ります。はねに3か所の茶色い斑紋があります。

今 ヒメヒカゲ



林沿いの湿地周辺にすむ、初夏から夏に見られます。はねの裏側によく目立つ目玉模様があります。幼虫は湿地に生えるスゲの仲間の葉を食べて育ちます。

今 ギフチョウ



明るい林にすんでいます。成虫は「春の女神」とよばれ、サクラが咲く頃に見られ、いろいろな花で蜜を吸います。幼虫はカンアオイの葉を食べて育ちます。

明石いきものコラム **すごいな、明石公園**

明石公園は、いろいろな昆虫がいることで有名です。Bランクとされているコカブトムシやクロマダラタムシ、ウマノオバチなど、森にすむ昆虫が多いことが特徴です。クワガタムシやハナムグリもたくさんいます。明石公園には大木が多く、利用者の安全に影響しない林の奥には、弱った木や枯木、倒木、折れた枝が、自然な状態に置かれています。芽生えた木が長い年月をかけて土に返るまでの、さまざまな段階があることで、多様な昆虫が生活できるのです。

公園の広い敷地と森林が、豊かな生き物を育んできました。明石公園は明石市民の誇りですね。



明石公園の林

要 ハグロフトオビドロバチ



里山林などにすんでいます。よく似た仲間と同じように竹筒などに巣をつくり、ガの幼虫を運びこむと考えられています。くわしいことはわかっていません。

要 オオハムシドロバチ



雑木林周辺にすむ、全身黒色で黄色い模様があるハチです。大型のハムシの幼虫を捕まえて運びますが、どのような巣をつくるのかはわかっていません。

要 ハラナガハムシドロバチ



林や草地にすみ、春から夏に見られます。ヨシの茎や細い竹筒の中に泥で固めた巣をつくり、巣にはハムシの幼虫を運びこんで、卵を産みつけます。

要 フタモンアシナガバチ



河原や海辺にすみ、成虫は春から秋まで見られます。植物の陰や石のすきまなど雨のあたらないところに巣をつくり、集団で生活します。

要 モンスズメバチ



林や神社の森などにすむスズメバチです。木の洞に巣をつくり、集団でくらしています。成虫はセミを好んで狩り、幼虫のエサとします。

要 セツノアリバチ



公園やお寺の森などにすんでいます。アリののような形をしたハチで、オスははねがあつて飛ぶことができますが、メスははねがなく飛ぶことはできません。

要 シロオビハラナガツチバチ



草地や畑にすんでいます。成虫はいろいろな花を訪れて蜜を吸います。メスは土の中にあるコガネムシの幼虫に卵を産みつけます。

要 シロスジギングチ



林やお寺の森などにすみ、木の穴に巣をつくり、成虫は夕方活発に活動し、いろいろなハエの仲間を捕まえて巣に運びます。

要 サクラトゲアナバチ



海辺の砂浜にすみ、砂地に巣をつくり、春から夏にハマボウフウの花で見られます。成虫はハエの仲間を捕まえて、巣に運びこみ、卵を産みつけます。

要 ニッポントゲアナバチ



海辺の砂浜にすみ、春から夏に活動します。砂地に穴を掘って巣をつくり、成虫はハエやユスリカの仲間を捕まえて巣に運びこみ、卵を産みつけます。

要 アカアシハヤバチ



里山林にすみ、地面に穴を掘って巣をつくり、成虫はバッタやキリギリスの仲間を捕まえて巣に運びこみ、卵を産みつけます。

要 ヤマトスナハキバチ




海辺の砂浜にすみ、砂地に穴を掘って巣をつくり、成虫は小さなセミの仲間のヨコバイを捕まえて巣に運びこみ、卵を産みつけます。

魚類
A: 4種
B: 12種
要調査: 1種




A ヤリタナゴ




流れが緩やかな川や用水路などにすんでいます。ドブガイなどの大きめの二枚貝に管をさしこんで卵を産み、貝の中で子どもが育つという習性があります。

A ドジョウ



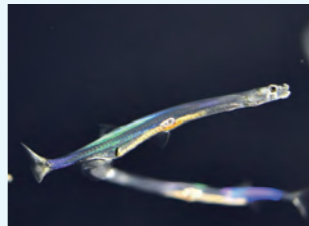
水田や水路などにすんでいます。細長い体に、10本の口ひげがあります。水の中の酸素が少ないときは水面の空気を吸って腸で呼吸することができます。

A チウガタスジシマドジョウ




流れの緩やかな川の中流から下流や用水路などにすんでいます。細長い体にしま模様があり、6本の口ひげがあります。川の改修工事などで数が減っています。

A シラウオ



川の水と海水が混ざる汽水域にすむ、小さくて細長い魚です。体は半透明で、骨や内臓が透けて見えます。春に川をさかのぼって卵を産みます。

B ニホンウナギ




海岸から川の上流まで広くすんでいます。日本から遠く離れた海で卵を産み、生まれた子どもはしばらく海をたどった後、川をさかのぼって成長します。

B ギンブナ




ため池や水路などの流れの緩やかな場所にすんでいます。藻や水の中の虫など、いろいろなものを食べます。メスだけで子どもを増やせることがわかっています。

B ヌمامツ



川の中流から下流の流れの緩やかな場所に多い魚です。川の上流側にすむカワムツとよく似ていて、20年ほど前までは同じ種とされていました。

B カマツカ



川の中流から下流や水路などの、底に砂の多い場所を好みます。いつも水底にいて、砂の中の虫などを食べ、敵がくると砂に潜って隠れます。



明石いきものコラム

ギンブナとヘラブナ


明石市レッドリストでカテゴリーBとされているギンブナ。実は全国的にはそれほど珍しい魚ではありません。むしろどこにでもたくさんいるのでは?と思う方もいるかもしれません。なぜ明石市ではギンブナが減っているのでしょうか。

原因は、釣りをする人などが池に放す「ヘラブナ」です。ヘラブナはもとはゲンゴロウブナという種類で、琵琶湖や淀川にしかいない魚でした。ギンブナよりもヘラブナのほうが、おなかから背中幅(「体高」といいます)が大きいという特徴があります。もともとギンブナと近い種類なので、放流されたヘラブナがギンブナのすみかをうばうことになり、ギンブナが減ってしまったのです。

人の手によって生きものを放すときには、もともとそこにくらす生きもののかをよく考える必要があります。





B イトモロコ




川の中流から下流とそれに続く水路において、水底近くを群れで泳いでいます。体の真ん中を通るうろこは他より大きく、黒い斑点があり、全体に黒い線に見えます。

B コウライモロコ



川の中流から下流とそれに続く水路において、流れの緩やかな砂や石の底を好みます。川と農業用水路を行ったり来たりして生活します。長めの口ひげがあります。

B アユ




大人のアユは川の上流から中流にすんでいます。秋に生まれた子どもは海まで流されて冬をこし、春に川をさかのぼって、1年で一生を終えます。

B ミナミメダカ



川や池、田んぼ、水路などの、流れが緩やかで水草の多い場所にすんでいます。浅いところで水面近くを群れで泳ぎ、プランクトンなどを食べています。

B カワアナゴ




川の下流から海の近くまでいます。昼間は石や流木などの隠れ場が多いところに潜んでいて、夜に活動します。体の色は周りの色に合わせて変わります。

B ミミズハゼ




ミミズのような細長い体で、川の中流から河口の石や砂利の隙間に潜んでくれています。川で生まれた子どもは海に下り、少し大きくなると川に戻ってきます。

B ウキゴリ



川の中流から海の近くまでの流れの緩やかなところにいます。川底の石の下にぶらさがるようにたくさんの卵を産み、生まれるまでオスが卵を守ります。

B ゴクラクハゼ



川の下流から海の近くまでの砂底において、砂や小石の間を泳いで小さな虫などを食べています。石の下の卵をオスが守り、生まれた子どもは海へ下ります。

要 カネヒラ



川や水路などの流れの緩やかな場所にすむ、体長 12cm ほどの大型のタナゴの仲間です。イシガイなどの二枚貝に卵を産み、貝の中で子どもが育ちます。

要 オナガアゲハ



森や林にすみ、春から夏に見られます。日当たりのよい林道沿いを活発に飛び、ツツジなどの花で蜜を吸います。幼虫はミカンの仲間の葉を食べて育ちます。

要 ツマキチョウ



林やその周囲の草地にすんでいます。成虫は春先にのみ見られ、オスののはねの先は黄色くとがっています。幼虫はタネツケバナの葉を食べます。

要 ツマグロキチョウ



河川の堤防や畑の周りの明るい草地にすんでいます。成虫のまま冬を越し、春から秋まで見られます。幼虫はマメ科のカワラケツメイなどを食べます。

要 スジグロシロチョウ



林や草地にすみ、春から秋に見られます。成虫は草地上をゆっくりと飛び、タンポポなどの花で蜜を吸います。幼虫はアブラナの仲間の葉を食べて育ちます。

要 ヤマトアオドウガネ



河川敷や海沿いに多くすみ、成虫は初夏から夏に見られます。成虫は全身緑色で丸っこい形をしていて、樹木の葉を食べて生活していると考えられます。

要 シロスジコガネ



海辺のマツ林などにすみ、成虫は夏に見られます。茶色の体に白いたて線模様が目立つ大きなコガネムシです。幼虫は砂地の中で植物の根を食べます。

要 ヒゲコガネ



大きな河川敷などにすみ、夏に見られます。成虫は茶色の体に白い斑点があり、オスの触角（ヒゲ）は先が大きく広がります。幼虫は砂地で生活しています。

要 ヘイケボタル



田んぼや湿地にすむ小型のホタルです。成虫は初夏から夏に見られ、夜には小さな光を点滅させます。幼虫は水の中にすみ、マキガイの仲間を食べて育ちます。

要 ホシアシブトハバチ



山沿いのエノキの周辺にすんでいます。オレンジ色の体に黒い斑点がある大きなハバチです。成虫は春に見られ、幼虫はエノキの葉を食べて育ちます。

要 キイロモモフトハバチ



森や林にすみ、成虫は春に見られます。体が黒色から茶色の大きなハバチです。幼虫はハンノキの葉を食べます。地面の近くで集団でまゆをつくりまします。

要 ホシセダカヤセバチ



森や林にすみ、成虫は春から夏に見られます。体は黒くおなかのつけねに黄色い斑紋があります。メスは長い産卵管でカミキリムシの幼虫に卵を産みつけます。

要 ケブカスジドロバチ



公園や民家の周辺にすみ、春から秋に見られます。コンクリートや石の隙間に泥で固めた巣をつくりまします。ガの幼虫を捕まえて巣に運びこみ、卵を産みつけます。


守りたい 田んぼとため池

明石市にたくさんあるため池ですが、その数は年々減ってきています。1971年に473あったため池は、2005年には111に減りました（明石市教育委員会『明石のため池』より）。田んぼでの米作りのために作られたため池は、田んぼが減るとともに役目を終え、埋め立てられてきたのです。

田んぼやため池、水路、周りの草地は、お互いにつながりあって、たくさんの生きものたちのすみかとなっています。水の中にはいろいろな種類の水草が生え、ドジョウやタナゴにメダカ、カエルやその子どものオタマジャクシ、トンボの子どもでもあるヤゴ、ヒメタイコウチなどの昆虫がくらしします。田んぼの畦には明るい草地の植物が、ため池の周りには湿地に生える植物が育ちます。全国的に田んぼやため池が減るにつれて、これらの生きものたちも、数が減ってきています。中には絶滅が心配されているものも少なくありません。

大切な明石の生きものたちとそのすみかを、みんなで守っていききたいですね。

明石いきものコラム



ため池の風景

要 ノシメトンボ



水田や池にすんでいます。成虫は夏から秋に見られ、夏は林の縁にいて、秋に田んぼやため池で卵を産みます。はねの先に大きくこげ茶色の斑紋があります。

要 ダイミョウセセリ



森や林にすんでいます。成虫は春から秋までの間に2~3回発生し、ヒメジョオンなどの花で蜜を吸います。幼虫はヤマノイモの葉を食べて育ちます。

要 ホソバセセリ



林のそばにある草地にすんでいます。成虫は夏に見られ、ふらふら飛んではアザミなどの花で蜜を吸います。幼虫はスキなどイネ科の葉を食べて育ちます。

昆虫類

A: 9種
B: 23種
要調査: 46種
今見られない: 3種



A ネアカヨシヤンマ



ヨシなど水辺の草がよく茂った池にすんでいます。成虫は夏から秋に見られ、朝と夕暮れ時によく活動します。体の黄色や黄緑色の模様が目立ちます。

A アオヤンマ



ヨシなど水辺の草がよく茂った池や湿地にすんでいます。成虫は初夏から夏に見られ、早朝や夕方に活発に活動します。全身が緑色の美しいトンボです。

要 コチャバネセセリ



ササがよく茂った林にすみ、春と夏の2回発生します。成虫は体が小さく、とてもすばしっこく飛び回ります。幼虫はササの仲間の葉を食べて育ちます。

要 ウラゴマダラシジミ



森や林にすみ、成虫は初夏に見られます。はねの表面は薄い紫色で黒いふち取りがあり、とてもきれいです。幼虫はイボタノキの葉を食べて育ちます。

要 オオミドリシジミ



森や林にすみ、成虫は夏に見られます。オスは午前中に活動し、葉の上にとまってなわばりを張ります。幼虫はコナラなどの葉を食べて育ちます。

A ハッチョウトンボ



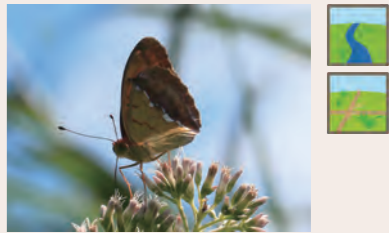
水がしみ出す林治いの湿地に生息しています。成虫は初夏から夏に見られます。世界でもっとも小さなトンボといわれ、オスの体は全身が真っ赤です。

A ヒメタイコウチ



水がしみ出す山治いの湿地にすんでいます。小さくて丸っこいタイコウチの仲間では、はねが縮んで飛ぶことはできません。動物の体液を吸って生活しています。

A ウラギンスジヒョウモン



明るく広い草原にすんでいます。初夏と秋に見られ、成虫はいろいろな花で蜜を吸います。幼虫はスミレの仲間の葉を食べて育ちます。

要 ウラナミアカシジミ



森や林にすみ、成虫は初夏から夏に見られます。はねの表側は鮮やかなオレンジ色、裏側は黒いしま模様があります。幼虫はクヌギなどの葉を食べて育ちます。

要 シルビアシジミ



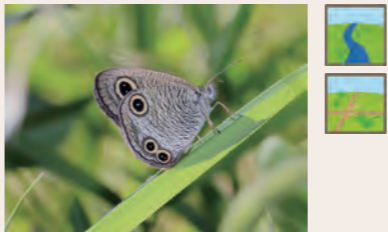
河川治いなど日当たりのよい草地にすみ、春から秋まで何度も発生します。小さく青いシジミチョウで、幼虫はミヤコグサを食べて育ちます。

要 イシガケチョウ



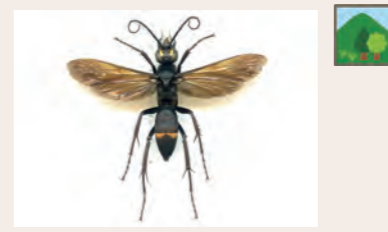
日当たりのよい林にすんでいます。成虫は春から秋に見られ、はねには白地に黒い線が入った石垣のような模様があります。幼虫はイヌビワの葉を食べます。

A ウラナミジャノメ



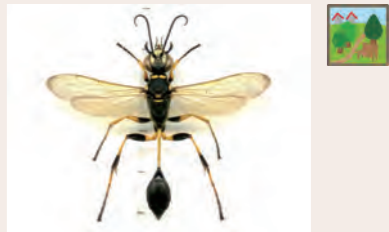
明るい草地にすみ、初夏と秋に見られます。地味な色ですが、はねの裏側はうす茶色のさざ波に大きな目玉模様が目立ちます。幼虫はイネの仲間の葉を食べます。

A フタモンクモバチ



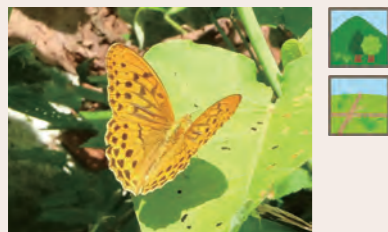
石垣の多い神社や竹林の周辺にすみ、夏に見られます。石垣のすきまなどに巣をつくり、大型のオニグモの仲間を捕まえて巣に運びこみ、卵を産みつけます。

A キゴシジガバチ



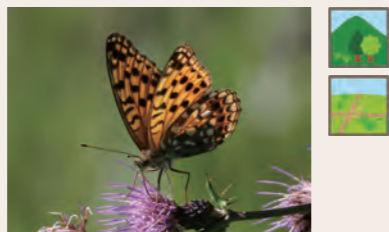
草地や住宅地の周辺にすみ、夏に見られます。泥で固めた巣をつくり、オニグモの子どもやハナグモの仲間を捕まえて運びこみ、卵を産みつけます。

要 メスグロヒョウモン



林のそばにある草原にすみ、夏から秋に見られます。オスはオレンジ色、メスは黒っぽい色をしています。幼虫はスミレの仲間の葉を食べます。

要 ウラギンヒョウモン



明るい草原にすみ、初夏から秋に見られますが、暑い夏は活動を休みます。成虫はアザミなどで蜜を吸います。幼虫はスミレ類を食べて育ちます。

要 イチモンジチョウ



森や林にすみ、成虫は春から秋まで3回ほど発生します。はねには黒地に白い1本の帯があります。幼虫はスイカズラの仲間の葉を食べて育ちます。

A ウスリモンハナバチ



明石では里山林にすんでいて、成虫は夏から秋に見られます。黒い体に水色の毛が所々に生え、美しいハチです。アキノタムラソウなどの花で蜜を吸います。

B オオイトトンボ



浮き草の多い池や水田周辺の水路にすんでいます。成虫は春から秋まで見られ、水面付近で活動します。オスは水色、メスは緑色や水色をしています。

B サラサヤンマ



山治いの湿地や林の中の小さな池にすんでいます。成虫は春から夏に見られ、オスは水面上を飛びながらメスを探します。黒い体に黄色の模様があります。

B ヨツボシトンボ



水草がしげる池や湿地にすんでいます。成虫は春から初夏に見られます。はねに4つの黒い部分があることが、名前の由来になっています。

B キトンボ



木陰があり、秋に水が減って岸が出るような池にすんでいます。成虫は夏から冬の初めに見られます。体とはねの大部分が黄色いので、この名前がついています。

B ナニワトンボ



秋に水が減って岸が出るような池にすんでいます。成虫は夏から秋に見られ、オスは全身が真っ青で、水辺の石の上や杭にとまってなわばりを張ります。

B コカブトムシ



森や公園の林にすみ、成虫は夏から秋に見られます。その名の通り、小さくて黒いカブトムシです。オス、メスともに小さな角を持っています。

B クロマダラタマムシ



山沿いや神社にすみ、春から夏に見られます。成虫は黒く輝く体に卵色の斑紋があります。幼虫は大きなエノキの枯れた枝の中に入って育ちます。

B ウマノオバチ



森や林にすみ、春から初夏に見られます。メスは馬の尾の毛のような長い産卵管を持ち、木の奥深くに隠れているシロスジカミキリの幼虫に卵を産みつけます。

B ミヤマアカネ



田んぼや水路など流れがゆっくりな水辺にすんでいます。成虫は夏から秋に見られます。はねにある太くて茶色い帯がよく目立つ赤とんぼの仲間です。

B ハルゼミ



アカマツの林にすみ、珍しく春に見られるゼミの仲間です。日が差すと、成虫は一齐に「ムゼームゼー」と聞こえる鳴き声で合唱します。

B オオチャバネセセリ



林のそばにある草地にすんでいます。成虫は初夏と秋に見られ、アザミなどいろいろな花で蜜を吸います。幼虫はススキやササの葉を食べて成長します。

B カバオビドロバチ



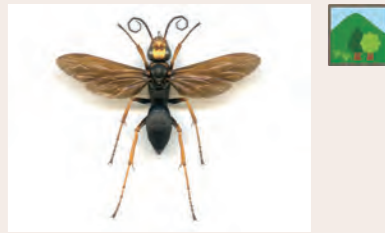
林の周りや草地にすんでいます。成虫は夏に見られ、竹の筒などに泥で仕切りを作って幼虫のための部屋をつくり、ガの幼虫を運びこんで卵を産みつけます。

B キオビクモバチ



海辺の草地や河原などにすみ、初夏から秋に見られます。地面に穴を掘って幼虫の部屋をつくり、大型のクモ類を捕まえて巣に運び、卵を産みます。

B スギハラクモバチ



枯れ木が多い森や林にすんでいます。切り株や木の穴などに巣をつくり、大きなクモ類を捕まえて巣に運び、卵を産みつけます。

B ミズイロオナガシジミ



森や林にすみ、初夏に見られます。灰色の地味なシジミチョウですが、後ろばねに尾っぽのような突起があります。幼虫はコナラなどの葉を食べて育ちます。

B アカシジミ



森や林にすみ、初夏から夏に見られます。成虫はオレンジ色をしており、夕暮れ時に高いところを活発に飛びます。幼虫はコナラなどの葉を食べて育ちます。

B ミドリシジミ



湿地のハンノキ林にすんでいます。成虫は主に初夏に見られ、オスは緑色に輝くはねを広げて葉にとまり、なわばりを張ります。幼虫はハンノキの葉を食べます。

B サトセナガアナバチ



ゴキブリの多い住宅の周辺にすんでいます。春から秋まで見られ、ゴキブリ類の幼虫を捕まえて巣に運び、卵を産みつけます。

B フクイアナバチ



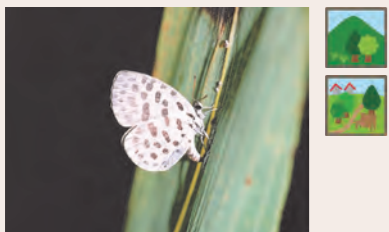
里山の田畑の周辺にすんでいます。夏から秋に見られ、土に穴を掘って幼虫の部屋をつくり、ハネナシコロギスというコロギスの仲間を運びこみます。

B シロスジフトハナバチ



明石では里山林にすんでいて、夏から秋の初め頃、クサギなどの花で蜜や花粉を集めます。ミツバチよりも大きく、おなかに白と黒のしま模様があります。

B ゴイシジミ



ササがよく茂った林にすんでいます。成虫は春から秋に見られ、はねの裏側は白地に黒い斑点の模様があります。幼虫はアブラムシを食べて生活しています。

B ミドリヒョウモン



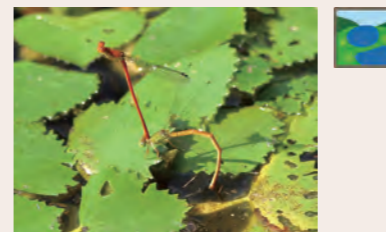
林に近い明るい草地にすんでいます。成虫は夏から秋に見られ、ヒヨドリバナなどいろいろな花で蜜を吸います。幼虫はスミレ類の葉を食べて育ちます。

B マイマイカブリ



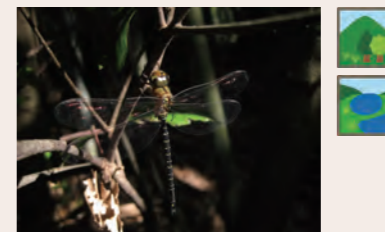
林や草場にすみ、地上を歩き回ってミミズやカタツムリを食べます。首がとてもし長い変わった形をしており、はねはくっついて飛ぶことができません。

要 ベニイトトンボ



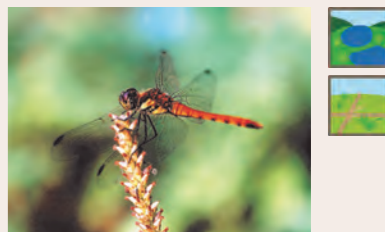
水草がよく茂った池や沼にすんでいます。成虫は初夏から秋に見られ、水辺の草にとまっています。オスは全身きれいな赤色で、名前の由来になっています。

要 カトリヤンマ



林沿いの池や田んぼにすみ、夏から秋に見られます。成虫は薄暗い環境を好み、林の中の暗い場所で休んでいるところをよく見かけます。

要 アキアカネ



水田や池にすんでいます。成虫は夏の間は山に移動して暮らし、秋に田んぼに戻ってきて卵を産みます。昔から「赤とんぼ」として親しまれてきました。